０５／０６／１９　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：神が親に求めておられること
聖書箇所：申命記　４章９－１０節

つい先日、このようなアンケート結果が新聞に出ていました。ある生命保険会社が全国の男子４千人に「頼りがいについてのアンケート」を行なったその結果です。頼りになるのは親であると答えた人のうち、父親を頼りにしている人は４０．１％で、母親を頼りにしている人は５９．９％、どちらかと言うと母親を頼りにしている人が多いということです。また、５月に男女２千人に行なったアンケートでいざというとき一番頼りになる人は？という問いかけに、１位は親で４１．２％、２位は配偶者で２０．８％、配偶者と解答した８３１人のうち、２０代以下と３０代では夫が頼りになると答えた妻が、妻が頼りになると答えた夫よりも多かったのです。若い人たちは夫が頼りになると多くの人が答えたのですが、面白いことに、４０代以上では逆転するのです。私よりもしっかりしている、だから妻を頼りにする、妻は肝が据わっているからと、年齢とともに夫が妻を頼りにして行く構図が浮かび上がります。皆さんのご家庭はいかがでしょう？お父さんよりお母さん、夫より妻と言うのでしょうか？

私たちイエス・キリストを信じる一人ひとり、私たちは残されたこの地上の人生をしっかり正しく歩んで行くことが大切です。聖書は私たちに、親として夫として妻として、父として母として、どのように生きて行くべきなのかを教えてくれています。世の中が期待する父でなくても母でなくても、夫でなくても妻でなくても、神が喜ばれる、神が期待される、そのような夫や妻、父や母になって行くことが必要です。どのようなことを神は私たち親に望んでおられるのでしょう？そのことを今日、旧約聖書の申命記４章から学んで行きましょう。

☆神が親に求めておられること

申命記４章、今日は９－１０節を見ますが、ここで神は二つの命令をイスラエルの民に与えておられます。それを今日しっかり学んで、それを神の助けによって実践して行きたいものです。

１．<u>神の律法（教え）に従って行く</u>

実はこの４：１からモーセはイスラエルの民に対して大切なことを教え続けてきました。それは、神の命令を守って行きなさいということです。イスラエルの民といっても、どういう人々にモーセは語ったのでしょう？どういう状況で彼はこの教えをしたのでしょう？そのことを私たちがしっかり頭に入れてからこのみことばを見るとき、もっとよく分かってきます。ですから、まず、どのような状況だったのか説明します。

皆さんもよくご存じのように、奴隷であったイスラエルの民はエジプトにいましたが、彼らはモーセによってそこから解放されました。そして、彼らはイスラエルの民に神が約束された約束の地カナンへと向かって行ったのです。あるところで、モーセはその約束の地を調べるために１２人の斥候を送りました。１２人が戻ってきて、その中の１０人は「とんでもない、無理だ、あそこには巨人が住んでいる、我々があの地を征服するなんて不可能だ、止めよう！」と言います。ところが、二人は確かに大変かも知れない、しかし、神が約束されたのだから我々は神を信じて、神を信頼して、その神のみこころに従うべきだと、そのように言ったのです。だから、行こう！と言うのです。しかし、民は１０人の声を聞きました。無理だ、我々は太刀打ちできないと。その結果、彼らは約束の地に入ることができず、４０年間荒野をさまようことになったのです。神の約束は、この斥候の中の二人、征服が不可能だと思えるような敵であったとしても、神がやれと言うことを我々はすべきであり、神が働かれるなら必ず勝利できると信じたヨシュアとカレブ以外は、その約束の地には入れないということでした。４０年間、彼らは荒野を放浪し続け、そして、彼らは今、約束の地の入り口のところに立っているのです。死海の北、ヨルダン川を挟んで対岸はエリコです。そのモアブの草原に彼らはやって来たのです。そこで、モーセは神が約束されたように、神を信じることなく、信頼することなく死に絶えたその世代ではなく、新しく起こって来た新しいイスラエルの世代に対して語ったのです。

モーセは何を語ったのでしょう？４：１から見ましょう。**「今、イスラエルよ。あなたがたが行なうように私の教えるおきてと定めとを聞きなさい。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたの父祖の神、主が、あなたがたに与えようとしておられる地を所有することができる。4:2 私があなたがたに命じることばに、つけ加えてはならない。また、減らしてはならない。私があなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令を、守らなければならない。」**と、これが神がモーセを通して民に語ったことでした。神の命令に忠実に従いなさいということです。神が言われたその通りに、あなたは歩んで行きなさいと。そして、このメッセージこそ時代がどのようであっても、私たち一人ひとりに神が望んでおられることです。神の命令に従いなさい、神のみことばに従って生きなさいということです。

さて、そのようなことを教えたモーセは、４：９の前半で**「ただ、あなたは、ひたすら慎み、用心深くありなさい。」**と言います。この部分をヘブル語から直訳すると、「ただ、あなたは気をつけ、用心して、自分自身を守りなさい、自分自身を見張りなさい、自分自身を保護しなさい」とそのことを言っています。また、「自分自身」という名詞は、私たちのからだを指しているのではありません。「たましい、いのち、人、願望、感情、欲望、熱情」といった意味をもつことばです。ですから、モーセがここで民に命じたことというのは、守らなければいけないのは、私たちのからだではなくて、私たちのすべてを支配している私たちの心、その心をしっかり守りなさいということです。その後、**「あなたが自分の目で」**と続きますが、日本語では出て来ないのですが、この間にある接続詞が入っているのです。それは「…しないように」とか「…するといけないから」という接続詞です。モーセはこのイスラエルの民がどのようなことをしてはならないと教えたのでしょう？二つのことが９節に書かれています。一つは**「あなたが自分の目で見たことを忘れ**」てしまうこと、そのようなことがないようにと言います。もう一つは**「一生の間、それらがあなたの心から離れる」**こと、そのようなことがあなたのうちに起こらないこと、そのことをモーセは強く願ったのです。そのために、あなたは自分の心をしっかり守らなければならない、その部分が誘惑されてしまうときに、大変な結果がそこには生まれて来ると言うのです。そして、そのことがこのイスラエルの人々の歴史を振り返って見ると繰り返されてきたのです。９節を見たとき、モーセは、神のみことばに従って行きなさいと教えた後、でも、それを実践するためにあなたがたの心がいつもしっかり守られていなければならないと伝えたのです。モーセがこのようなことを言ったのは、これまでの４０年間、彼自身も含めてイスラエルの民がどれほど神の前に罪を犯してきたのか、そのことがよく分かっていたからです。つまり、モーセは人間の弱さがよく分かっていたのです。

実は、この４：３を見ると、**「あなたがたは、主がバアル・ペオルのことでなさったことを、その目で見た。バアル・ペオルに従った者はみな、あなたの神、主があなたのうちから根絶やしにされた。」**と、このようなことが記されています。これはいったい何のことをモーセは言ったのでしょう？この民がよく知っていることです。モーセはこのことによって彼らに警告を与えたのです。このバアル・ペオルというのはモアブ人たちが崇拝していた偶像の名前です。そして、民は今モアブの草原にいたのです。ヨルダン川を挟んでその向こうはエリコ、ヨルダン川の東側にイスラエルの民はいたのです。そのときの様子が、民数記２５章に記されています。２５：１**「イスラエルはシティムにとどまっていたが、」**とあり、このシティムが今話しているモアブの草原です。死海の北、ヨルダン川を挟んでエリコの対岸にありました。モーセが最後に約束の地を見たところ、その山の頂に登って神の約束された地を見るのですが、そのネボ山、そこから北西に１０キロほど行ったところ、そこにあったのがこのシティムという町でした。エリコから大体１５キロ位東に行ったところです。ここまでイスラエルの民は旅を続けて、神によって勝利に継ぐ勝利を得ていました。モアブの王はイスラエルがやって来たのを見て、非常な恐れを抱いたのです。そこでモアブの王バラクはあることを考えたのです。ある有名な人物を自分たちのところに招こうというのです。そして、その人物にイスラエルをのろってもらおうとしたのです。そうすれば我々はイスラエルに勝つことができるからと。そして、このバラクはバラムという一人の占い師を呼んでくるのです。それは民数記の２２章に出て来ます。バラムがロバに乗ってやって来るとき、ロバが畑の方に移動するのです。それでバラムはロバを叩くのです。その後、ロバは壁のほうに寄ってくるとか、狭い細い道になるとそこに座り込んでしまうとか、そのような出来事があったのです。バラムは何も分かっていなくて「なんとだめなロバか」とロバを叩きます。そのとき、**「22:28 すると、主はろばの口を開かれたので、ろばがバラムに言った。「私があなたに何をしたというのですか。私を三度も打つとは。」:29 バラムはろばに言った。「おまえが私をばかにしたからだ。もし私の手に剣があれば、今、おまえを殺してしまうところだ。」:30 ろばはバラムに言った。「私は、あなたがきょうのこの日まで、ずっと乗ってこられたあなたのろばではありませんか。私が、かつて、あなたにこんなことをしたことがあったでしょうか。」彼は答えた。「いや、なかった。」:31 そのとき、主がバラムの目のおおいを除かれたので、彼は主の使いが抜き身の剣を手に持って道に立ちふさがっているのを見た。彼はひざまずき、伏し拝んだ。:32 主の使いは彼に言った。「なぜ、あなたは、あなたのろばを三度も打ったのか。敵対して出て来たのはわたしだったのだ。あなたの道がわたしとは反対に向いていたからだ。:33 ろばはわたしを見て、三度もわたしから身を巡らしたのだ。もしかして、ろばがわたしから身を巡らしていなかったなら、わたしは今はもう、あなたを殺しており、ろばを生かしておいたことだろう。」:34 バラムは主の使いに申し上げた。「私は罪を犯しました。私はあなたが私をとどめようと道に立ちふさがっておられたのを知りませんでした。今、もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」**と、そして、バラムはバラクのもとにやって来ました。イスラエルをのろってくださいと言うバラクに対してバラムはそれをしないで、三度もイスラエルを祝福するのです。バラクは怒り狂いました。そんなために呼んだのではないと。でも、バラムはそれが神のみこころではないと知って、イスラエルを祝福して帰って行くのです。このような出来事がありました。ところが、そこに駐留していたイスラエルの民はどのようだったか、もう一度、

民数記２５：１から見てください。**「民はモアブの娘たちと、みだらなことをし始めた。:2 娘たちは、自分たちの神々にいけにえをささげるのに、民を招いたので、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。:3 こうしてイスラエルは、バアル・ペオルを慕うようになったので、主の怒りはイスラエルに対して燃え上がった。」**と、イスラエルの人々はここでモアブ人の神々を崇拝したのです。そして、**「みだらなことをし始めた」**、罪を犯したのです。これまでイスラエルの民は神によって勝利を得ていたのです。しかし、このとき、今まさに彼らがその約束の地に入ろうとしているときに、このような大きな罪を犯すのです。確かに、このようなことを知ると、イスラエルの民であっても、また今の私たちでも非常に弱い存在であることは明らかです。

もう一つ付け加えるとしたら、先のバラムは自分のところへ帰って行き、２２章の記事だけを見ると神に従った立派な人物のように思えますが、どうも彼はこのイスラエルの罪にからんでいたようです。なぜなら、このバラムについては新約聖書の中でも旧約聖書の中でも、このように教えられているからです。Ⅱペテロ２：１５**「彼らは正しい道を捨ててさまよっています。不義の報酬を愛したベオルの子バラムの道に従ったのです。」**と、バラムの名前が出て来ます。また、民数記３１：１６に**「ああ、この女たちはバラムの事件のおり、ペオルの事件に関連してイスラエル人をそそのかして、主に対する不実を行なわせた。それで神罰が主の会衆の上に下ったのだ。」**と記されています。バラムはイスラエルの人々の堕落に関連していることを見ることができます。そして、決定的なことが黙示録２：１４にこのように記されています。**「しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行なわせた。」**と、今私たちが見てきたことがここに書かれています。ですから、恐らくこのバラムは、イスラエルを祝福したのですが、バラクに働きかけてイスラエルの人々を誘惑する、そのすべを教えたのかも知れません。いずれにせよ、イスラエル人は誘惑の中、神に対して罪を犯すのです。すばらしい祝福の中にいたイスラエル人はこのように偶像礼拝という罪を犯してしまったのです。

偶像礼拝というとすぐに私たちは、何か目に見える、人が作った像を拝むとか、偽りの神を崇拝するとか、そのように思ってしまうのですが、みことばを見ると、確かにそのように教えられているのですが、それだけではなく、聖書にはこのようにも教えられています。たとえば、サムエルのメッセージの中にこのようなことばがあります。Ⅰサムエル１５：２３**「まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。」**と、神の教えに従って行かないこと、それは偶像礼拝だと言うのです。新約聖書、エペソ５：５に**「あなたがたがよく見て知っているとおり、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者――これが偶像礼拝者です。…」**とあります。ですから、私たちに神よりも大切なものがあるなら、それが自分の趣味であったり、仕事、お金、名誉などであるなら、それは偶像礼拝です。神よりも優先するものは偶像になりかねません。知らず知らずのうちに私たちは神よりも大切なものをしっかり握り締めているかもしれません。みことばが教えることは、神の教えに従わないことは偶像礼拝であり、神に対する大きな罪だということです。だから、モーセはイスラエルの人々に対して、用心をして気を付けて自分の心をしっかり守らなければすぐに罪に陥ってしまうということをここで警告するのです。神の教えを忘れることなく、道から逸れることなく正しく歩み続けて行きなさい、それがモーセがここで新しい民に語ったメッセージです。

この神の教えに従って行きなさいということは、もう皆さんは毎週のように教えられチャレンジされています。私たちがみことばを読むときもその通りです。神はこのように歩みなさいと教えてくださる、そのことを私たちが聞いたり学んだりすると、神に従って行くことに自由がない、何の楽しみもないかのように思ってしまうことはないでしょうか？私たちは自由に生きるならもっと楽しいのではないか、神の教えに従って行くなど堅苦しい、魅力がないと…。では、何のために神は私たちに律法、教えを与えてくださったのでしょうか？この４章はその答えをくれます。先ほど見た４：１には**「今、イスラエルよ。あなたがたが行なうように私の教えるおきてと定めとを聞きなさい。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたの父祖の神、主が、あなたがたに与えようとしておられる地を所有することができる。」**とあります。神は私たちに何を教えてくれているのでしょう？神が言われるのは、あなたが本当に神の祝福をいただきたいのなら、神のみことばに従って行きなさいということです。これだけです。この１節でモーセが教えたように、神の教えをあなたが聞き、それに従って生きて行くなら、あなたには祝福が与えられるというのです。私たちが自分の思い通りに生きて行こうとするなら、自分の好きなことができるかもしれませんが、分かっていることは、その間違った選択のゆえに、神の祝福を逃してしまうということです。非常に簡単なことです。神に従う者を神は豊かに祝福してくださるが、逆らう者には神は祝福を与えることはできないのです。どちらの道を私たちは選択するかです。かつての私たちがそうであったように、自分の好きなように生きる生き方に何の祝福があったでしょうか？そこにあったのは満足のない歩みであり、そして、神の怒り、神のさばきしかなかったのです。そこから私たちは救い出されたのです。ですから、なぜ神はこの律法や教えを与えてくださったのか、私たちの祝福のためです。

同時に、４：５から見て行くとこのように記されています。**「見なさい。私は、私の神、主が私に命じられたとおりに、おきてと定めとをあなたがたに教えた。あなたがたが、はいって行って、所有しようとしているその地の真中で、そのように行なうためである。:6 これを守り行ないなさい。そうすれば、それは国々の民に、あなたがたの知恵と悟りを示すことになり、これらすべてのおきてを聞く彼らは、「この偉大な国民は、確かに知恵のある、悟りのある民だ。」と言うであろう。:7 まことに、私たちの神、主は、私たちが呼ばわるとき、いつも、近くにおられる。このような神を持つ偉大な国民が、どこにあるだろうか。:8 また、きょう、私があなたがたの前に与えようとしている、このみおしえのすべてのように、正しいおきてと定めとを持っている偉大な国民が、いったい、どこにあるだろう。」**。もし、私たちがこのイスラエルの民と同じように、神のみ教えに従って行くなら、すばらしい証を為すということです。イスラエル民族が神によって選ばれたのは、彼らを通して、この創造主なるまことの神のすばらしさが世に明らかにされるためでした。**「この偉大な国民は、確かに知恵のある、悟りのある民だ。」**と人々はそのように言うというのです。だから、ソロモンの知恵を聞くために、シバの女王たちがやって来るのです。つまり、神はイスラエル民族を祝すことによって、彼らを通して神がどのようなお方かを明らかにするのです。そして、今の私たちクリスチャンも同じです。神が私たちを救いへと導いてくださったのは、私たちを通して神のすばらしさを、神を知らない人たちに明らかにするためです。私たちが神の教えに従って行くとき、すばらしい神が証されて行くのです。

でも、それを聞いてもみことばに従って行くことの堅苦しさを思う私たちに、みことばは私たちの動機についても教えています。４：３７に**「主は、あなたの先祖たちを愛して、その後の子孫を選んでおられたので、主ご自身が大いなる力をもって、あなたをエジプトから連れ出された。」**とあります。最初に神が人々を愛していると記されている箇所です。なぜ、あなたがたは神の教えに従って行くべきなのか、神がイスラエルの民に言われたことは、「わたしがあなたたちを愛している」ということです。神に愛されている、それが分かった人は神に喜ばれることを選択して行こうとします。申命記１４：１にも**「あなたがたは、あなたがたの神、主の子どもである。」**とあり、今の私たちクリスチャンもその当時のイスラエルの民も神に属する者であるゆえに神に従って行こうとするのです。子どもがその親を尊敬するなら親に従って行こうとするし、親のまねをしようとするし、親が喜ぶことをしようとします。そのように私たちは学んでいるのですが、また戻って行くところはそれでも難しいという、そこです。私たちは信仰者として神の前を正しく歩んで行くことは非常に難しいこと、それは説明するまでもないでしょう。皆さんはもう毎日の生活を通して繰り返し繰り返し失敗を重ねている、自分は弱い、情けないと思うことは多々あるでしょう。

では、私たちはどのようにして行けばいいのでしょう？それについてもこのみことばは教えてくれます。４：１０を見てください。**「あなたがホレブで、あなたの神、主の前に立った日に、主は私に仰せられた。「民をわたしのもとに集めよ。わたしは彼らにわたしのことばを聞かせよう。それによって彼らが地上に生きている日の間、わたしを恐れることを学び、また彼らがその子どもたちに教えることができるように。」**、ホレブで主の前に立ったと、これはシナイ山のことです。ですから、この後を見て行くと神から十戒が与えられる、そのことが出て来ます。そのときのことをもう一度モーセは民に話すのです。神の臨在がシナイ山にあった、それは、その経験を通して、彼らが生きている間、神を恐れることを学んで行くためだ、神を心から敬うことを学んで行くためだと。そして、この４章を見ても、私たちが神を恐れる者として生きて行くために何をすればよいのかを教えてくれています。

（１）<u>いつも神の恵みを覚えること</u>＝４：３に書かれているように、バアル・ペオルのことで神に従わなかった者を神は根絶やしにされました。**「あなたがたは、主がバアル・ペオルのことでなさったことを、その目で見た。バアル・ペオルに従った者はみな、あなたの神、主があなたのうちから根絶やしにされた。」**と。しかし、４節には**「しかし、あなたがたの神、主にすがってきたあなたがたはみな、きょう、生きている。」**とあります。神がどれほど罪深い私たちをあわれんでくださっているか、そのことを決して忘れてはならないと言うのです。

（２）自分に与えられる報いを覚えること＝１節に出てきました、従うならあなたはこのような祝福をいただくと言います。４節では、すがって行くならあなたは助けをいただくと、また９節では、あなたの心が離れなければ…と言います。つまり、私たちが覚えなければいけないことは、自分のしたことに対する報いは自分に返ってくるということです。どのような選択をするか、それは自分に返ってくると。ですから、私たちは神の恵みを覚えるとともに、自分の行動に対しては自分に責任があるということをしっかり覚えて生きることです。

さて、神はこのように教えを与えられました。そして、イスラエルの民は神の様々な奇蹟を見てきました。私たちが経験したことがないような奇蹟です。しかし、彼らはその教えを守ることができなかったのです。大切なことは、私たちの内側が変えられて行くことです。私たちが何か特別な体験を期待するなら、それは一時的な感動を与えても私たちの内側を変えるものではありません。イスラエルの民は

すごい奇蹟を見てきたのに、心は変わって来なかった。今、私たちに必要なことは、神のおことばを聞き、そして、神の前に静まりへりくだって、「神さま、私には助けが必要です。私はこのように生きて行きたいです。あなたのみことばを実践する者になりたいです。どうぞ私を変えて行ってください。」と、神が私たちの内側を変えてくださることによってこれが可能になるのです。神はそのことを私たちに望み、命じ、それが実現可能であることを私たちに教え続けてくださるのです。

２．神の律法（教え）を教える者になりなさい

神がイスラエルの民に望んだこと、一つ目は「神の律法（教え）を行なう者となるように」ということでした。二つ目は「神の律法を教える者になりなさい」ということです。９節の後半を見ると**「あなたはそれらを、あなたの子どもや孫たちに知らせなさい。」**と、**「知らせなさい。」**とあります。知らないことを教えたり、どのように行くのか、どのように事を行なうのかを教えたり、知識を与えたり、このことばは、たとえば、猟をする技術であるとか、航海をする技術、楽器演奏の技術など、そのようなところにも使われます。この知識というのは、あのエサウという人物は**「巧みな猟師、野の人となり、」**（創世記２５：２７）と書かれています。つまり、彼は猟の仕方を学ぶことによって、獲物をうまく仕留めることのできる猟師になったのです。また、ソロモンが宮を造っているときに、主の宮の職人の長ヒラムが、何隻かの船と海に詳しいしもべたちをソロモンのところに連れてくるのです。彼らは知識を得ることによって、どのように荒海を航海して行くのかを学んだのです。また、サウル王の上に悪霊が臨んだときに、楽器弾きを呼んで来て楽器を弾かせたら良いでしょうと、王の家来が進言します。つまり、ただ知るだけではないのです。ここで言われていることは、いろいろな知識を蓄えるのがいいということです。その知識によってその人がそれを実践して行く、それにおいて優れた者になるように、そのように教え導いて行くことです。ですから、ここで神がモーセを通してイスラエルの民に言われたことは、子どもたちや孫たちに、ただ知識を詰め込むことではない、それによって、彼らが実践して行けるように、その真理に従って生きて行けるように、そのように教え導いて行きなさいと、そのことです。箴言の中にこのようなソロモンのことばがあります。２２：６**「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」**と。ですから、私たちは親として祖父母として、その子どもたち孫たちが、ただ知るだけではない、それによって彼らが正しく生きて行くようにしっかり教え導いて行きなさい、それがあなたがたの責任だというのです。

今の私たちの世の中にあって、親の責任とは何でしょう？と問いかけたなら、いろいろな答えが返ってくると思います。世の中は、我々は子どもをより幸せにするために良い学校に送りましょうとか、良い仕事に就くようにと言うかもしれません。しかし、私たちは聖書を見たときに、この新しい民、今まさに約束の地に入ろうとしている民に対して神が言われたことは、あなたは親として、祖父母として、あなたの子どもや孫に教えなければならないことは、この神についてであるということ、そして、彼らがその神を信じて、その神に従って行く者となって行くようにということで、それが神があなたがたに期待していることであると、このことをモーセはここで新しい民に言うのです。どんなにこの地上ですばらしい職を得たとしても、たましいが救われていなければそれは空しいものです。どんなに人から尊敬されたとしても、罪が赦されていなかったら空しいことです。私たちクリスチャンの親は、しっかりと何のために神が子どもを託してくれたのかを覚えなければいけない、思い出さなければいけないのです。それは、私たちがこの子どもたちを神を愛する者として育てて行くことです。神に従順に従う者として育てて行くことです。その責任を神からいただいているのです。そして、そのために、私たちは一日一日を過ごすのです。

去年２００４年にこの世を去った、アメリカ第４０代の大統領ドナルド・レーガン、彼は大統領になった後こんなことを言っています。「私たちの国家の存続において、アメリカの家庭よりも重要な機関はない。そこでは個人人権の種が植え付けられ、公益の根が最初に養われる。愛と教訓、訓練、しつけ、指導、模範により、我々は母や父から我々の個人、また国民としての生活を形作る価値を学んで行く。」と。つまり、彼が訴えたことは、政府のどんな機関よりも、我々国民にとって一番大切なことは家庭であると言ったのです。そこでしっかり正しく子どもたちを教えて行くことが必要だと。そして、レーガン大統領は彼の神を愛する母親からみことばを教えられ続けたのです。彼はある時、就任後まもなく、ちょうど暗殺事件があったときです、たいへんな怪我を負いました。そのとき牧師が「大統領、あなたは神に会う備えができていますか？」と聞き、彼は「ハイ、私はイエス・キリストを信じています」と答えました。どこからその信仰は来たのでしょう？母親がいつも傍にいて教え続けたのです。彼が亡くなったとき葬儀が行なわれ、彼の息子のマイケル・レーガン、彼は１９４５年にレーガン家に養子として迎えられたのですが、彼がこのようなことを人々の前で証しました。「私は生まれたときから馬や車などいろいろなプレゼントを父からもらいました。しかし、父が与えてくれた最高のプレゼント、それは永遠のいのちです。」と。父が子どもたちに伝えた最も大切なこと、それはイエス・キリストを信じ

ることだったと言うのです。そして、彼はこう続けました。「それはすべての父親がすべての子どもに与えるべきものである。そして、私は父に敬意を表わすために、同じ贈り物を私の息子に与えたい。私は父にこのことを約束できる。お父さん、私がこの世を去るとき、私も天国へ行きます。そして、そこで天使たちと神の臨在の前で、病から解放されたからだで、いっしょに踊りましょう。」と。晩年、レーガンは病に侵されていました、お父さんから与えられた最高のプレゼント、それはイエス・キリストにある永遠のいのちだと。

いかがですか皆さん、あなたはこの最高のプレゼントをあなたの子どもたちに、孫たちに伝えていますか？彼らが永遠の滅びに向かっているのを知っていながら、何もしないなんて…。親として神から与えられた大きな重要な責任、それはこのイエス・キリストのことを彼らに伝え続けて行くことです。もう手遅れだなどと思わないでください。子育てをする前にこのことを聞いておけば…などと思わないでください。なぜなら、今神がこのメッセージをあなたに与えているというのは、まだあなたにはすることがあるからです。今日私たちは帰って、愛する子どもたちや孫たちのために、このメッセージを語り続けること、祈り続けることです。私たちの愛する者がだれ一人として永遠の滅びに至ることがないように、私たちは為すべきことがまだ残っています。こんな父親であるなら、人々がどのように言おうと、神が喜んでくださる頼れるお父さんになります。その方がすばらしいと思われませんか？神が良しとしてくださる、神が誉めてくださるような、そんな父親に、母親に、夫に妻に、おじいちゃんおばあちゃんにあなたはなって行けます。そのことをあなたが望んでそのように歩み始めるなら…。今日からそのように生きてください、そして、神のみわざを期待しましょう。